



第48号
2.3.2
発行 暁星高等学校
島根県立平田高等学校
暁星会
印刷
(有)西村印刷

縁に結ばれて



会長 山下壮一

平成から令和へと時の世も代わり、思いも新たに歩む昨今となりました。

暁星会会員の皆様には、ご健康にてお過ごしのことと存じます。平素より当会に對しまして、又母校平田高等学校に對しましてご支援を賜り厚く御礼申し上げます。さて、大変に嬉しいお知らせを致す事となりまして、

既にご承知で、またご寄付をお寄せ頂きました会員様もいらつしやると思いますが、母校「平田高等学校野球部」が第九十二回選抜高等学校野球大会に「推薦校」として出場する事になりました。

開校百三年、又野球部開部七十年の記念すべき年に素晴らしい快挙を成し得る事が出来ました。暁星会会員共々に心から祝福を致したいと存じます。

不肖私が「甲子園出場後援会会長」に就任致しました。

皆様方には百周年記念事業の折には大変なご支援を頂きました。其の後の年月も浅くして、新たなご支援をお願い致す事は大変に恐縮ですが、母校・平田高等学校の歴史を飾る一大事に格別のご支援・ご協

力を賜りますようお願い申し上げます。

また女子陸上部は京都駅伝大会に十一回・連続九回出場を果たしました。他にも柔道部の国内・国外での活躍に合わせ、JRC部の活動が全国で連続して上位賞を得ると共に、放送部の全国大会での成績も素晴らしい一年間でした。それぞれの部活動の活躍は別欄にて報告されています。

まさに文武両道の高校として確立されていることは、諸先生方の熱心なご指導と、生徒さん達の学校内外に於ける情熱的な取り組みの賜物であります。

間もなく母校・平田高等学校を巣立ち行く生徒の皆様が、参力年の思い出を大切にされ、歩まれる人生の幾山河が実り多き年月で有ることを心からお祈りいたします。結びに、暁星会会員皆様のご健康・ご多幸を心からご祈念致しましてご挨拶と致します。

平田高校は今、島根県で最も勢いのある学校です！



校長 坂根昌宏

一月二十四日午後三時、平田高校野球部が二十一世紀枠として第九十二回選抜

高等学校野球大会に出場することが決定したという電話が、選考委員会本部からかかってきました。昨秋の県大会で出雲高校、立

正大湊南高校、開星高校、大社高校という強豪校と次々と破り、決勝では矢上高校に敗れましたが準優勝、そして、中国大会では広島県二位の尾道商業高校に勝ってベスト8進出という実績と、保育園児・幼稚園児を対象とする野球の普及活動が高く評価されました。本校が甲子園に出場するのは春・夏を通じて初めてです。野球部関係者はもちろん、全国の暁星会会員の皆様や地域の皆様には、この快挙を大変喜んでいただいております。一月三十日に行われた甲子園出場後援会の発足式には約百三十人に

ご参加いただき、盛大に選手を激励していただきました。大会は三月十九日から始まります。選手たちは、甲子園で校歌を歌うことを目標にしています。どの学校と対戦することになっても、選手たちは、本校の校訓である「自立・創造・協同」と郷土の誇りを胸に、最高の舞台で全力を尽くしてくれるものと確信しております。試合当日は、暁星会会員の皆様にも甲子園にお出かけいただき、一緒に校歌を歌っていただき、卒業生や地域の方々も一体となって応援する貴重な機会ですので、全校応援の体制をとりたいと考えております。また、甲子園出場にはかなりの経費がかかりますので、募金活動にもご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

野球部の他にも、たくさんの方が活躍しています。陸上部の女子駅伝チームは、県大会でケニアからの留学生を擁する益田東高校に一分以上の差をつけて優勝し、九年連続十一回目の全国高校駅伝出場を達成しました。柔道部は、個人戦で男女各一名が鹿児島で行われたインターハイに出場しました。また、一年生の福田大和君は、十八歳未満を対象とする三つの国際大会に日本代表として出場しました。ポロランド、ロシア、カザフスタンで世界の強豪と対戦し

た経験を活かし、三月二十日に群馬県前橋市で行われる全国高等学校柔道選手権大会で力を発揮してほしいと思っています。秋に行われた新人戦では、陸上部、柔道部、卓球部、剣道部が中国大会に出場しました。文化部も成果をあげており、JRC部、文芸図書部、放送部が全国大会に出場し、さらに来年度の全国大会出場もすでに決めています。また、JRC部の様々なボランティア活動や、吹奏楽部、放送部、美術部などの地域の文化活動への参加などについては、地域の皆様が大変喜んでいただいております。

このように、本校は中規模校ながら、大規模校にも勝る部活動の成果をあげています。また、新しい動きとして、今年度から三年間、文部科学省の新規事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に取り組むことになりました。この事業は、高等学校が、市町村、大学、産業界などの地域の様々な機関と連携して、組織的に地域課題の解決などの探究的な学びを推進すること、高等学校を地域振興の核と位置づけ、将来の地域社会を担う人材を育成することを目的としています。本校が申請した「地域魅力化型」の募集枠は全国で二十校という狭き門でしたが、本校の事業計画である「地域人材育成循環システム 平田プラタナスプラン」は難関を突破し、採択されました。本校の取組は、地域にある様々な人的・物的資源を活用して地域にイノベーションを起す人材を育成し、その人材が高校卒業後も地域で学びの土壌を育み、次世代を担う子どもたちを育てるという循環システムの構築を目指しています。その中核となるのが二年生の「地域協働学習」です。地域の課題である「地域ブランドの創出」「出雲産あずきの普及」「多文化共生社会の推進」「外国人が住みやすい街づくり」、「ファン人口・交流人口の増加策」

「木綿街道・本町商店街の活性化」の

三つのテーマについて、たくさんの方々に協力していただき、体験的・探究的に学びました。こうした活動を通して生徒たちの地域に対する理解が深まり、地域肯定感や地域貢献意識が高まっています。後期生徒会長選挙に立候補した三名が、いずれも「地域協働学習」で学んだことを活かして地域貢献に取り組み考えを述べました。

また、平田ケーブルテレビの新春特別番組において、生徒会執行部の五名が、出雲市長との対談の中で、将来においても地域の活性化に関わりたいと述べました。育てたい人材が確実に育っています。この事業を活かして、平田高校の魅力をさらに推進したいと考えています。

部活動の活躍や文部科学省事業に関わる取組など、本校の話題が新聞やテレビに取り上げられる機会が増えています。平田高校は今、島根県で最も勢いのある学校だと言われています。このたび卒業する百五十三名は、名古屋研修旅行やクラッシュを導入した一期生でもあり、本校の様々な新しい教育活動によって力をつけてきました。是非、自信をもってこれからの人生を歩んでほしいと思います。そして、これからは学校の外から母校を支える応援団になってください。また、暁星会の先輩方と関わる機会を大切にして、人間関係を広げてほしいと思います。先輩の皆様には、新会員を快く受け入れていただきますようお願いいたします。私は、今年こそ暁星会の総会を開催するチャンスだと思っています。母校への思いを接点として結集し、組織的にご支援いただくことほど学校にとって心強いことはありません。教職員一同、本校の教育の質の向上に全力を挙げて取り組んでまいりますので、今後ともご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

部活動
上位大会
出場者から

柔道部

団体戦で全国大会へ

柔道部 一年 福田 大和

私は四月に入學してから、全日本カデ柔道選手権で優勝し、その後、日本代表としてポーランド、ロシア、カザフスタンと海外の大会を経験させてもらうことができました。

私がこうして様々な大会に出場させてもらえるのは毎日一緒に練習をしている先輩、仲間達のお陰です。目標に向かって、一緒に頑張る仲間がいるからこそ、今の私の目標の一つが、『団体戦で全国大会に出場すること』です。

団体戦では、夏冬共に県予選決勝戦で敗れ、全国に出場することができませんでした。団体戦の試合では、保護者の方の熱い応援も聞こえました。励ましの声も掛けてもらいました。私達の為に時間を使って練習に参加して下さるOB、OGの先輩方、コーチ、たくさんの方々に支えられながら、たくさんの期待を背負って戦っていることがわかりました。次こそは柔道部全員で全国大会に出場し、全員で喜びを分かち合いたいです。それは簡単なことではありませんが、不可能ではありません。

団体戦は、チーム



の総合力の戦いです。一人一人のレベルアップとカバーしあえるチーム力があれば、勝つことができます。私自身、チームに貢献できるように、もっと個の力を伸ばしていきたいと思っています。

何を考えて練習するのか、何を食べて作りをするのか、練習以外の時間をどのように過ごすのか、怪我をしないようにどうするのか、まだまだ伸びしろはあります。次の決勝戦の前に、「これだけのことをしてきたんだから」と自信をもって言える時間を過ごしたいと思います。そして、その自信がチームを優勝へと導いてくれるのだと思います。

陸上部

「皆様に支えられて」

主将 野津 きなり

私の高校生活は陸上競技が中心でした。楽しかったことや嬉しかったことはもちろん、辛いことや苦しいことも全部大切な宝物になりました。陸上競技を通じてたくさんの経験が自分を成長させてくれました。私はこの3年間、故障を繰り返しても、見捨てることなく指導して下さったコーチや、トレーナーの方、声をかけて励ましてくれる先輩達がいまいました。また、思うように走れず、親にも迷惑をかけました。でも、家族は毎日一緒に悩んで話を聞いてくれ、美味しいご飯を一生懸命作ってくれました。

そして、そんな私の一番の心の支えになったのは駅伝チームのみんなでした。毎日の部活がとにかく楽しかったです。今年の駅伝チームのメンバーは本当に個性豊かだけど、全員で同じ方向に向かって練習ができたことがとても良かったです。

全国高校駅伝大会では、目標とする成績

には届きませんでしたが、全員が自分のためだけではなく、チームとして支えてくださった方々への感謝の気持ちをもって走り切れたと思います。今回の結果は悔しさが残る分、来年、再来年に繋がる駅伝になったと思います。来年は全国のトップで戦えるチームになると信じているし、これからも元気で明るくたくさんの人に応援してもらえるチームであり続けて欲しいと思っています。私は平田高校としての最後の駅伝でしたが、3年間で一番楽しく、このメンバーで一つになってタスキを繋げたことがとても嬉しかったです。

今、私には夢があります。それは、一生懸命全力でスポーツをする人を支える立場になることです。高校3年間の中での経験から、体力面だけでなく精神面や栄養面など様々な方向から選手を支えて、怪我や不調に悩まず思い切りスポーツをしてもらいたいと思うようになりまし。自分の経験を活かし、選手に寄り添えるトレーナーを目指したいと思っています。そしていつか母校の平田高校の後輩たちが全国で活躍できる手助けをして恩返しをする、という目標に向かって頑張っていきます。



野球部

主将 保科 陽太



私たち平田高校野球部は、一月二十四日に第九十二回選抜高校野球大会二十一世紀枠に選出されました。



昨年は補欠校となり、甲子園に行くことができませんでした。今年も、二十一年紀枠推薦校として甲子園に出場させていただきます。出場が決まった際にはたくさんの方々から祝福の声やご声援をいただき、改めて平田高校野球部は多くの皆様に支えられていただいているのだと認識することができました。また、高校野球選手にとって憧れの地である甲子園という檜舞台で大好きな野球ができることにとても幸せを感じています。

私たちの目標は、「甲子園で校歌を歌う」ことです。今そのスタートラインに立たせてもらいました。残りの期間でチームまたは個人の足りないところは埋めていき、良いところはさらにレベルアップを目指し、目標達成できるように頑張ります。

また、二十一年紀枠の選考理由に普及活動があります。現在、野球人口が減少しており、その現状を改善し、昔みたいに野球が活発になってほしいと私たちは思っています。野球の楽しさや魅力を子どもたちに知ってほしいという願いを込めて平田地域を中心とした子ども野球教室を行っています。

これまでたくさんの方々にお世話になりました。各大会では熱いご声援をいただき、それが私たちの闘う力となり、昨年、一昨年と秋季大会では準優勝、中国大会でも一勝することができました。また、ご声援だけでなく、たくさんの方々の支援もいただいています。多くの方々のお世話になり

改めて野球ができる幸せを噛みしめることができました。甲子園では、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えられるようなプレーをして、皆さんと一緒に甲子園で校歌が歌えるように頑張ります。

放送部

「思いをかたちに」

部長 岡 紗奈美

私たち放送部は、「伝える、そして伝える」をモットーに、自分たちの作品や発表を見たり聞いたりした人の記憶に残るような番組制作や「読み」といった活動をしています。

私は「読み」では、特にアナウンスをやっています。アナウンスでは、話題を見つけているところから始まります。自分で調べたりインタビューしたりして、原稿を仕上げしていきます。そして何より大切なのは、原稿を部員や先生と共有して互いに聞き合うことです。聞き合うことで客観的な意見を聞き、自分が伝えたいことが伝わるか確認することができま。そうして聞く人の心に残る自分の最高の読みができるように頑張りました。

番組制作では、何ヶ月も前から準備を始めます。題材が決定したら取材に入ります。事前に必ず下調べをしたり、インタビュー内容を考えたりします。取材も一回だけではなく、足りない映像や加えたい映像を撮りに何回も行ったりしました。そして、自分たちの表現したいことが伝わるように編集していきます。最後の最後まで妥協せず、時間の許す限り調整をして作品を完成させました。

アナウンスにしても番組にしても、上手く原稿が書けなかったり編集作業が進まなかったりしたときは辛かったです。でもそ

れを経て、完成したときはずっと嬉しかったです。そして、三年間の活動を通して、人と話すことが多かったのですが、コミュニケーション力が上がり文章力をつけることができました。

放送部は、毎年のように全国大会に出場しています。全国大会は、競い合い評価される場であると同時に、よい勉強の場でもあります。技術を吸収するのはもちろん、県外の高校生が何を考えどのように行動しているのかを知ることができます。このように全国大会に毎年出場できているのも地域の方々や平田高校の皆様の協力無しではなしえないことだと思います。今では、地域のイベントや学校の行事の司会をさせてもらうなど活動の場が広がっています。これからも皆様の期待に応えられるように放送部は活動していきます。



JRC部

部長 廣戸 こそえ

私たちは「気づき・考え・実行する」を合言葉に、一人でも多くの人が、自分の命も、人の命も、守れる人になってほしい！と願い、私たちオリジナルの「体験型」防災啓発を企画・運営しています。今年には特に、先輩方が築かれた「体験型」防災啓発を行う中で、災害弱者の視点をもった活動に進化させました。



まず実態把握のアンケートから、若者には高齢者の実態を伝え、高齢者にはどんな手助けが必要かを伝えたい、高齢者や障がい者の疑似体験をしながら災害現場を逃げる、という「体験」をしてもらいました。体験前は勘違いや意識の低かった若者が、体験後は災害弱者とは何なのか、を体で感じて理解してくれて、どんな手助けをするのかを具体的に考えてくれるようになりました。

「リアルな情報」と「体験する機会」を私たちが提供することによって、今までは無関心だった人の意識が変わってきたのです。おかげで、地域の方々から次第に頼られる存在になってきたと実感しています。

相手の気持ちと実態に寄り添い、ニーズに気づき、人の役に立ちたい！という同じ思いをもつ人が集まると、自分にはなかった「気づき」を仲間が教えてくれたり、大きな活動も実現します。「命」を守る知識やノウハウ、人のために「考え」さらに「実行する」なんて、今までの自分にはできなかったことが、自然にできるようになりました。この輪がどんどん広がって仲間が増えるとうれしいです。

令和元年度 部活動の成績

全国大会

●柔道部

全日本カデ柔道体重別選手権大会
男子66kg級 福田大和 優勝
世界カデ柔道体重別選手権大会(カザフスタン)
男子66kg級 福田大和 5位
ヨーロッパカップ ポーランドカデ柔道選手権大会
男子66kg級 福田大和 ベスト8
ウラジオストクカデ柔道交流大会
男子体重別団体 福田大和 3位
全国高校選手権(平成31年3月)
女子57kg級 藤原遥果 5位
全国高校総体
男子66kg級 福田大和 ベスト16
女子57kg級 藤原遥果 出場
全国高校選手権(令和2年3月出場予定)
男子66kg級 福田大和

●陸上部

女子全国高校駅伝 出場
国民体育大会 来間美月 出場

●水泳

全国高校総体
200M 平泳ぎ 西尾佳奈 出場

●空手道

全国高校総体
女子 個人組手 個人形 金月瑠華 出場
国民体育大会
女子 個人組手 個人形 金月瑠華 出場

●フィギュアスケート

第69回全国高等学校スケート競技選手権大会
フィギュア競技 伊藤倅生 出場

●JRC部

全国ボランティア・アワード2019 入賞
全国ボランティアスピリッツ賞
全国青少年赤十字リーダースhip・トレーニングセンター 島根県代表 多々納美成

●放送部

NHK杯全国高校放送コンテスト 2作品出場

●文芸図書部

全国総合文化祭
俳句部門 原千紗季 出場
小説部門 村田美咲 出場
全国高校ビブリオバトル2019
陰山悠華 出場

●野球部

第92回選抜高等学校野球大会出場
(令和2年3月19日～31日)

県大会等

○県総体

●陸上部

男子3000mSC 4位 尾林恒星
男子走高跳 6位 佐藤蓮文
女子800m 3位 来間美月
女子800m 6位 松原のどか
女子1500m 3位 来間美月
女子3000m 2位 野津きなり
女子 5位 今岡有莉香
女子100mH 5位 中村好香
女子三段跳 6位 木村日薫
女子やり投げ 3位 田中美有
中国高校女子駅伝 6位入賞

●柔道部

男子団体 準優勝
女子団体 準優勝
男子個人 66kg級：優勝 福田大和

73kg級：準優勝 大田凱仁
90kg級：3位 森山渉央
3位 久保田竜二
100kg超級：3位 黒崎 尊
女子個人 48kg級：3位 三原冴絵
52kg級：準優勝 熱田晴香
3位 新宮みゆき
57kg級：優勝 藤原遥果
70kg級：3位 吉岡夢羽可

●サッカー部

一回戦 平田0-2 大社

●バレー部

二回戦 平田1-2 吉賀

●卓球部

男子団体 1回戦 平田3-1 松江農林
2回戦 平田0-3 出雲西
女子団体 2回戦 平田3-0 松江東
準々決勝 平田3-0 松江商業
準決勝 平田0-3 明誠 第3位

●男子テニス部

一回戦 平田0-3 出雲西

●女子ソフトテニス部

団体戦
一回戦 平田3-0 津和野
二回戦 平田0-2 出雲商業

●空手道

個人組手優勝、個人形優勝 金月瑠華

●剣道部

男子団体一回戦 1-3 情報科学
女子団体一回戦 3-2 浜田高
二回戦 1-1 松江東(本数負け)
※ベスト8

●男子バスケットボール部

一回戦 平田51-89 三刀屋

●女子バスケットボール部

一回戦 平田51-54 松江市女

●水泳

常松志麻 自由形50m 2位
福岡なぎさ 自由形50m 8位
井上みづき 背泳ぎ100m 1位
背泳ぎ200m 1位
西尾佳奈 平泳ぎ100m 1位
平泳ぎ200m 1位
奥井莉奈 個人メドレー200m 3位
個人メドレー400m 4位
フリーリレー 4×100m 1位
(常松志麻・奥井莉奈・西尾佳奈・西尾佳奈・岡鈴菜)
メドレーリレー 4×100m 8位
(常松志麻・奥井莉奈・西尾佳奈・西尾佳奈・岡鈴菜)

●野球部

○第102回全国高等学校野球選手権島根大会
1回戦 平田6-1 遼摩
2回戦 平田5-12 浜田商業
○島根県高等学校秋季野球大会
2回戦 平田2-0 出雲
3回戦 平田3-1 立正大浜南
準々決勝 平田2-1 開星
準決勝 平田7-1 大社
決勝 平田1-3 矢上
○第133回秋季中国地区高等学校野球大会
1回戦 平田2-0 尾道商業(広島県)
準々決勝 平田2-9 鳥取城北(鳥取県)

●吹奏楽部

○第60回全日本吹奏楽コンクール島根県大会
高等学校Aの部 銀賞
○第43回全日本アンサンブルコンテスト島根県大会
高等学校の部 菅打七重奏 銀賞
金管六重奏 金賞

●放送部

○島根県高等学校総合文化祭放送部門県大会
朗読部門：西村 桃 優良賞 中国大会へ出場
ビデオメッセージ部門：
「三百年の味、いかがですか。」 優秀賞
※次年度の全国総合文化祭への出場権獲得

●JRC部

○島根県高文連青少年赤十字 研究発表 最優秀賞
※次年度の全国総合文化祭への出場権獲得
○島根県民いきいき活動奨励賞 知事表彰

●美術部

○令和元年度高文連出雲地区絵画コンクール 入選
○第14回島根県高等学校文化フェスティバルポスター図案コンクール
優秀賞 昌子真弓(プログラム表紙の原画)
特選 福田桃子(プログラム紙面に掲載)
奨励賞 角 優那 石原怜奈
○令和元年度高文連出雲地区絵画コンクール
入選 9名

○第52回島根県高校美術展 入選 8名

●文芸図書部

○島根県文芸コンクール
小説部門 陰山悠華 優秀作 1位
※次年度の全国総合文化祭への出場権獲得
○第55回島根県国際教育日本語弁論大会
島根県高等学校国際教育研究協議会会長賞
原 鈴夏
※次年度の全国総合文化祭への出場権獲得

●写真部

○第47回島根県高等学校写真展 奨励賞

●書道部

○令和元年度島根県高文連書道コンクール
秀作 佳作



進路の状況

進路概況(延べ数)

合格先	卒業年度		H28年度		H29年度		H30年度	
	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒
合格者数	国立大	11	1	7	8	20	5	
	公立大	19		31		26	2	
	私立大	58	2	67	3	45	5	
	国公立短大	4	1	5		5		
	私立短大	11		1		10		
	文科省所管外の短期大学校	1				7		
	看護学校	1		3		9		
就業者数	その他の専門学校	26		21		11		
	大学校等							
未定卒業者数	計	131	4	135	11	133	12	
	企業	7		7		4		
未定卒業者数	公務員	2		3	4	2		
	計	9		10	4	6	0	
未定卒業者数	未定	16		12		16		
	卒業生数	156	4	157	15	155	12	